

## 「戦後60年」と神奈川

今年2005年は1945年から数えて60年目にあたる。60年前の8月15日、日本はポツダム宣言を受諾して、米英中露などの連合国に無条件降伏した。そして、広島、長崎をはじめ全国に広がる焼け野原と闇市から「戦後日本」が始まった。それから60年の歳月が流れた。

60年を人間の一生にたとえれば還暦ということになる。易学によれば、還暦とは60年周期で反復・循環する自然と人間の周期性のことであるが、易から離れても、60年前を振り返って歴史の教訓を引き出してみるのも意味あることに思える。

1945年は日本が中国を相手に(31年)、さらに米英を相手に(41年)始めた無謀な戦争が全戦線で敗北を重ね、終局を迎えていた年である。4月には沖縄に上陸した米軍との死闘の末、日本軍は全滅(死者9.4万人)、沖縄県民の犠牲者も17.8万人に達する悲惨な犠牲を出して米軍の手に陥ちた(米軍死者は1.3万人)。またグアム、サイパンなどで日本軍を全滅させた米軍はこれらを基地に日本の制空権を奪い、本土空襲を繰り返していた。

なかでも、3月10日のB29爆撃機300機による東京大空襲は、夜間の無差別爆撃だったため犠牲が大きく、死者8万人、負傷者11万人、焼失家屋26万戸、罹災者数100万人という空前の大惨事となった。5月29日の横浜大空襲でも死傷者14万人、焼失家屋10万戸という甚大な被害を被った。

そして運命の日、8月6日に広島、8月9日長崎に、人類史上最も残虐な兵器である原子爆弾が投下され、想像を絶する爆風、熱風、放射能のため広島で13万人(50年広島市発表で24万人)、長崎で9万人の尊い人命が一瞬にして奪われた。国民の犠牲を防ぐことより、国体護持(天皇制存続)にこだわり、戦争終結へのタイミングを先延ばしにしてきた政府も、ここに至って最終決断を余儀なくされ、8月15日、天皇自らポツダム宣言受諾を国民に告げた。

8月28日にはアメリカ占領軍の先遣隊を乗せた飛行機が厚木基地に初めて飛来した。さらに8月30日には連合軍最高司令官で、日本占領の責任者となったマッカーサー元帥が厚木基地に降り立ち、宿舎の横浜ニューグランド・ホテルに入った。日本人が初めて体験する外国軍隊による占領が神奈川から始まったのである。9月2日、降伏文書の調印式が行われた戦艦ミズーリ号も横須賀沖に停泊していた。このように、1945年の日本降伏と連合軍による本土占領の最初の舞台となったのが、神奈川県だった。

そして60年たった今、皮肉にも再び神奈川が日米の政治と軍事の焦点に浮かび上がってきている。ブッシュ大統領が打ち出した米軍の世界的再編の動きの中で、米国ワシントン州にある米陸軍第一軍団司令部のキャンプ座間への移駐、在沖縄海兵隊の一部のキャンプ

座間への移駐、さらに横須賀の原子力空母の母港化への動きなどが報じられている。池子地区の横浜区域への米軍家族住宅建設も強行されようとしている。

60年前、米軍による日本占領の始発地となり、占領後直ちに沖縄に次ぐ米軍基地を置かれ、米ソ冷戦下のアメリカの極東戦略の要(かなめ)となってきた神奈川が、冷戦終結後、唯一の超大国となったアメリカの、とくにブッシュ大統領が進めている単独行動主義に基づく世界戦略の最前線に、いま改めて立たされようとしている。

「対テロ戦争」を名目に、国際法を無視してアフガン、イラクに武力侵攻したアメリカは、一国支配をさらに強めようと太平洋から中東、北アフリカに至る「不安定な孤」をにらんで新たな軍事戦略を構築中であり、この再編計画が進むと日本とくに沖縄と神奈川はその最前線に立たされることになる。反米テロの標的にされることも含めて、日本とくに第一軍団司令部の置かれる神奈川のリスクは極めて大きくなる。時あたかも北朝鮮を仮想敵国、中国を脅威国と初めて規定した防衛計画大綱が発表された。極東条項を持つ日米安保が完全に変質し、自衛隊は米軍と一体化して普通の軍隊となり、憲法9条は完全に棚上げされる。

悪夢のような戦争から解放され、新憲法で、戦争を放棄し、平和・自由・民主の国づくりに励んできた日本が、60年を経て再び戦争のできる国になり、言論統制も徐々に強まり、反戦ビラを配って逮捕されるなど、再び戦前に「還暦」しつつある不気味さを実感しているこの頃である。

久保孝雄(くぼたかお)

新産業政策研究所長

元神奈川県副知事

アジアサイエンスパーク協会名誉会長

神奈川県日本中国友好協会会長